



プレスリリース

# 古伊万里

## —染付の美—展

2016年4月5日(火)～6月19日(日)



画像①

染付 獅子牡丹唐草文 水指 伊万里

江戸時代（17世紀後半）

高 16.6 cm

戸栗美術館所蔵



TOGURI MUSEUM OF ART

戸栗美術館



# 広報用写真

※以下の展示予定作品の写真データ等をご用意しております。ご掲載の際は注意事項をご覧の上、別紙写真借用申請書をお送り下さい。



画像② 染付 扇面文 鉢  
伊万里  
江戸時代（17世紀前期）  
口径 44.2 cm  
戸栗美術館所蔵



画像③ 染付 鳥形香合  
伊万里  
江戸時代（17世紀後半）  
通高 5.4 cm  
戸栗美術館所蔵



画像④ 染付 兔形皿  
伊万里  
江戸時代（17世紀後半）  
口径 15.0 cm  
戸栗美術館所蔵



画像⑤ 青磁染付 樹鳥文 葉形三足皿  
伊万里  
江戸時代（17世紀後半）  
口径 28.0 cm  
戸栗美術館所蔵

### ■ (表紙) 画像① 染付 獅子牡丹唐草文 水指 伊万里

江戸時代 (17世紀後半) 高 16.6 cm 口径 18.4 cm 高台径 14.7 cm

垂直に立ち上がった器形の水指。牡丹唐草が美しく咲き誇っている様子が器面いっぱいに絵付けされ、その中に躍动感溢れる唐獅子が4頭遊んでいる。絵柄は非常に繊細に描かれており、余白の白地と呉須(ごす)の濃淡が素晴らしく、優美な印象を与えている。

### ■ 画像② 染付 扇面文鉢 伊万里

江戸時代 (17世紀前期) 高 11.5 cm 口径 44.2 cm 高台径 12.2 cm

見込(みこみ)に扇と七宝薬玉と思われる文様を描いた鐸縁(つばぶち)の大鉢。縁には葉を点状にあらわした花唐草文を配し、その下には波濤状の唐草文をめぐらせる。随所に小花を散らし、薬玉の紐が風になびく表現が楽しげな風情を作り出している。見込に見られるフリモノや、口径に対して極端に小さく作られた高台などは初期伊万里の特徴である。

### ■ 画像③ 染付 鳥形香合 伊万里

江戸時代 (17世紀後半) 通高 5.4 cm 長 6.9 cm 底径 4.4 cm

茶の湯道具として作られた水鳥形の香合(こうごう)。本作はシンプルな器形ではあるが、首から口にかけての線や、染付で立体的に表現された羽の部分など非常に丁寧に作られている。内側は中心に仕切りがあり、内部までしっかりと釉が施されている。小さいながらもユーモアと存在感に溢れた優品である。

### ■ 画像④ 染付 兎形皿 伊万里

江戸時代 (17世紀後半) 高 2.6 cm 口径 15.0 cm 高台径 7.5 cm

図柄に合わせて縁を変形させ、陽刻と染付を用いて身体を丸めた兎を表現した皿。安定した発色の染付で兎の毛並みや髭(ひげ)までも繊細に描く。精密な絵付けと、薄い上質の素地がこのうつわの印象を上品なものにしている。同時代には魚や鳥などをかたどった変形皿も多い。

### ■ 画像⑤ 青磁染付 樹鳥文 葉形三足皿 伊万里

江戸時代 (17世紀後半) 高 7.8 cm 口径 28.0 cm 底径 15.7 cm

轆轤(ろくろ)で成形後、口縁(こうえん)に細工を加えて葉形とした皿。染付で描いた松樹にとまる尾長鳥と松葉に透明釉を施すほかは、青磁釉を掛ける。底裏は蛇の目状に釉剥(ゆうは)ぎし、鋸(さび)を塗った高台に、チャツと呼ばれる窯道具の跡が一重めぐり、高台内には目跡が1つ残る。

以上を含む、約80点を展示予定。



# 展覧会概要

17世紀初頭、佐賀・有田に日本初の磁器として誕生した伊万里焼。当時日本へ盛んに輸入されていた中国陶磁への憧れから、有田でも間もなく染付の製品がつくられるようになりました。染付とは、器胎に呉須で青い文様を描く技法、あるいはそのやきもののこととで、日本では文様を染め付けるところから発想を得て、その名がついたと考えられています。

伊万里焼の染付と一口に言っても、素朴な味わいのあるものから、青1色とは思えない華やかなものまで、その表現は実際に様々です。今展では、変化に富んだ約80点を展示。古伊万里染付の魅力を、時代によって変化する趣、多彩な技法、他色との調和、の3つの観点からご紹介いたします。



染付 鶴形皿

伊万里

江戸時代

(17世紀末～18世紀初)

口径 20.4×18.6 cm



# 展示詳細

## ■見どころ①—時代によって変化する趣

古伊万里は、現代では美術品として鑑賞されるようになりましたが、江戸時代の人々にとっては実用的なうつわ。そのため時代の要求や流行を取り入れ、次々とその姿を変化させました。また17世紀前期からの約100年間は技術の進歩も著しいものがあり、それは染付製品の変化を見ても明らかです。それぞれの時代の染付の特色をご紹介いたします。



染付 花菖蒲蝶文皿

伊万里

江戸時代（17世紀前期）

### ◆17世紀前期

伊万里焼の草創期にあたるこの時期は技術的に未熟な部分が多く、うつわの表面に灰が付着したり、陶工の指跡が残っているものも少なくありません。しかしそれらが自由闊達で伸び伸びとした筆の運びと、たっぷりとかかった釉薬にふわっとじむ染付の味わいと相俟って、かえって風情を生んでいます。

### ◆17世紀中期

伊万里焼の技術革新の時代。上絵付けをはじめ、薄くて丈夫な素地作り、これまでにない成形技法の獲得など、様々な面で新しい技法が取り入れられました。染付による絵付けの技術も格段に進歩します。肥瘦の少ない均一な太さの線を引けるようになり、細かな文様を描き出したり、輪郭線の間を塗り埋める濃（だみ）の技法が発達しました。



染付 松竹梅文皿

伊万里

江戸時代（17世紀中期）



染付 鶴木賀文 皿

伊万里

江戸時代（17世紀後半）

## ◆17世紀後半

17世紀後半、染付の技術は頂点を極めていました。線引きはより細く繊細に、自在に操られています。呉須の濃淡を巧みに用いた柔らかな表現や、よりムラの少なくなった濃からは、陶工たちの技術の高さがうかがえます。それらの技術を使って、余白を大きくとった絵画的な意匠が多く描かれました。



染付 網目文 手鉢

伊万里

江戸時代（18世紀後半）

## ◆18世紀以降

伊万里焼は豊かになった町人層へも生活のうつわとして広まっていきます。食器に加え、化粧道具や文具など新しい器種も生まれ出されました。量産化へと進む中、文様の画一化が生じます。頻繁に用いられた唐草文様や網目文様を見ると、手慣れた様子で線描きがされており、成熟した職人の技が感じられます。

### ■見どころ②—多彩な技法

古伊万里染付では単に線を引くだけではなく、面を塗りつぶす濃やその濃淡を色々と変えたり、吹墨（ふきずみ）といってスプレーのように器面に吹き付けたりと、様々な技法を用いることで、青1色でも豊かな表現を生み出しています。また下記に見るよう、白抜きの表現にも搔き落としや型と吹墨の併用があったり、1つのうつわに様々な技法を組み合わせて用いたりしています。

搔き落とし

呉須で塗りつぶした後、硬い道具を用いて削り落とす



染付 白鶴文 皿

伊万里

江戸時代（17世紀前期）

吹墨（ふきずみ）

白く残したい部分に型を置き、呉須を吹き付ける



染付 吹墨鶴文 皿

伊万里

江戸時代（17世紀前期）

墨弾き

（すみはじき）

白抜きにしたい部分を墨で描き、上から呉須をのせる。焼成すると墨の部分が燃えて消失し、白抜きになる



濃淡の使い分け

濃さの異なる呉須を使い分ける



染付 色紙杜若文 輪花皿

伊万里

江戸時代（17世紀後半）

口径 36.5 cm



## ■見どころ③—他色との調和

染付は、それだけでも十分主役として成立しますが、他の色と組み合わさった時、その味わいはさらに豊かなものとなります。時に青磁釉の青緑色を背景に柔らかな風合に仕上げたり、時には文様を除いた全面に銹釉を施して陶器風に見せたりすることによって、表情は様々に変化します。



青磁染付 波文 舟形皿  
伊万里  
江戸時代（17世紀後半）  
口径 17.2×8.2 cm



銹釉染付 鶴文 変形皿  
伊万里  
江戸時代（17世紀中期）  
口径 14.5×14.1 cm

※なお、概要の要約が必要な場合は以下の文章をご参照ください。

### ■ 34 word

江戸時代につくられた古伊万里染付の多様な魅力を所蔵品約80点から紹介。

### ■ 71 word

多様な表現を持つ古伊万里染付の魅力を、時代によって変化する趣、多彩な技法、他色との調和、の3つの観点からご紹介いたします。所蔵品約80点を展示。

### ■152word

17世紀初頭、磁器が焼かれ始めてまもなく誕生した古伊万里染付は、素朴な味わいのあるものから、青1色とは思えない華やかなものまで、その表現は実に様々。今展では、その魅力を時代によって変化する趣、多彩な技法、他色との調和、の3つの観点からご紹介いたします。技法や器形、時代など、変化に富んだ所蔵品約80点を展示。



## 展示解説

展示期間中、第2週・第4週の水曜日と土曜日に、当館学芸員による展示解説を行ないます。予約は不要です。入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください。

■第2・第4水曜 午後2時～ (4月13・27日、5月11・25日、6月8日)

■第2・第4土曜 午前11時～ (4月9・23日、5月14・28日、6月11日)

※各回、約40分～50分ほどの解説になります。

※団体でご来館のお客様への展示解説も承っております。電話(03-3465-0070)による事前予約制。お気軽にご連絡くださいませ。



## G W特別企画 やきもの展示解説 入門編

陶片に触れながら陶器と磁器の違いや伊万里焼の歴史などを学んだ後、「古伊万里—染付の美—展」をご案内致します。初心者の方もお楽しみいただける入門編の解説になります。予約不要。入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください。



<昨年の様子>

■4月 29日（金・祝）～5月 1日（日）、5月 3日（火・祝）～5月 5日（木・祝）

毎日午後 2時～（所要時間約 60 分）

☆参加者には当館特製リーフレットをプレゼント



## 戸栗美術館 概要

戸栗美術館は、創設者・戸栗亭が長年に渡り蒐集した陶磁器を中心とする美術品を永久的に保存し、広く公開することを目的として、1987年11月に、旧鍋島藩屋敷跡にあたる渋谷区松濤の地に開館しました。コレクションは伊万里、鍋島などの肥前磁器および、中国・朝鮮などの東洋陶磁が主体となっており、日本でも数少ない陶磁器専門の美術館として活動しています。



会場 : 戸栗美術館

開館時間 : 10:00～17:00（入館受付は 16:30まで）

休館日 : 月曜日

入館料 : 一般 1,000円/高大生 700円/小中生 400円(団体 20名様以上で 200円割引)

※ゴールデンウィーク期間中、小中学生の入館料無料

交通 : 渋谷駅ハチ公口より徒歩 15分／京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩 10分

※当館には駐車場・駐輪場はございません。

## ■Youtube 戸栗美術館チャンネル

<http://www.youtube.com/channel/UCGsnhei61hDkvDQIftWy9ZA>

## ■次回展示予定

2016年7月2日（土）～9月22日（木・祝）

『古伊万里唐草—暮らしのうつわ—展』

## ■展覧会に関するお問い合わせ

公益財団法人戸栗美術館 広報担当宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3

TEL : 03-3465-0070 FAX : 03-3467-9813

URL : <http://www.toguri-museum.or.jp/>

E-mail : [kouhou@toguri-museum.or.jp](mailto:kouhou@toguri-museum.or.jp)



## アートサークルのご案内

陶磁器に親しみ、美術館をより楽しんでいただくために、会員制のアートサークルを設けております。1年間何回でもご入館いただける他、さまざまな特典もご用意しております。

年会費 ￥5,000（税込）／発行から1年間有効

※有効期限内のご更新は、4,500円です。

（期限を過ぎてのご更新は新規ご入会と同じく5,000円となります）

**特典①** 入会から1年間、何度でもご入館いただけます。

**特典②** ご入会時に戸栗美術館オリジナルグッズをプレゼント。

（はがき5枚、A5クリアファイルのどちらかをお選びいただけます）

**特典③** 年末に当館オリジナルカレンダーをお送りいたします。

**特典④** 展示ごとに陶磁器の専門家による特別展示解説にご参加いただけます。

開催日時は会報でお知らせします。

（所要時間約1時間、要予約・定員制・先着順）

**特典⑤** 会員様を含めた3名以上の団体様は、学芸員による展示解説（ミニツアー）を受ける事ができます。（随時予約受付、所要時間約30分）

**特典⑥** 各展示に1回月曜休館日に開催される特別講座にご参加いただけます。

開催日時は会報でお知らせします。

（参加費1500円、所要時間約3時間半、要予約・定員制・先着順）

**特典⑦** 企画展ごとに会報「戸栗美術館だより」、招待券2枚、展示ご案内チラシをお届けいたします。

**特典⑧** ミュージアムグッズを価格の1割引きでご購入いただけます。

（一部除外品あり）